

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 56 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2022 年 4 月 18 日 (月) 13 時 30 分～15 時 10 分

2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 柳原主査, 武部副主査, 脇幹事, 坂下, 佐々木, 柏木, 中瀬, 平井, 小松原, 上田,
横田, 丸, 岩崎, 竹腰, 山本 (15 名)

(欠席委員) 梅原 (1 名)

(常時参加者) 岡田, 森本, 古田, 船橋, 山田, 南 (松本代理), 宮田 (7 名)

(欠席常時参加者) 満田, 小野, 土田 (3 名)

4. 配付資料

F9Ph2SC56-0 第 56 回分科会 議事次第

F9Ph2SC56-1 第 55 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録 (案)

F9Ph2SC56-2 L2 大型角型廃棄体製作検査標準案に対する LLW 廃棄体等製作・管理分科会コ
メント対応一覧表 (全体レビュー)

F9Ph2SC56-3-1 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXー大型角型容器形
態編ー 標準に係る中間報告概要説明資料 (案)

F9Ph2SC56-3-2 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXー大型角型容器形
態編ー の標準原案に関する中間報告 (案)

F9Ph2SC56-4-1 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXードラム缶形態編
ー サイクル専門部会対応について

F9Ph2SC56-4-2 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXードラム缶形態編
(案) の原子燃料サイクル専門部会 再投票コメント一覧表

F9Ph2SC56-参考 1 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXー大型角型容器
形態編ー 2022 年 2 月 28 日送付版

5. 議事

(1) 出席委員の確認

脇幹事から, 分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

神鋼 宮田氏の常時参加者登録が承認された。

(3) 前回議事録案の確認

脇幹事から, 事前確認をお願いしていた第 55 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録案に,
一部記載の修正 (赤字部分) があった旨紹介され, 追加コメントは無く承認された。

(4) L2 大型角型廃棄体製作検査標準案に対する LLW 廃棄体等製作・管理分科会コメント対応一覧表（全体レビュー）について

柏木委員と協幹事から、資料 3-1 に基づき、全体レビューでいただいたコメントに対する対応方針案の説明があった。それに対する質疑は、以下のとおり。

- ・ No13 の対応方針にある「管状廃棄物の片方の開口部の端の容器との空間の意味」とは、どこを指しているのか？

→管状廃棄物を積み上げた場合の片側の端の中心から注入するということであり、注入位置を容器と廃棄物の間にできる両側の空間の片方の中央から注入するということです。

→容器側面と廃棄物の間にできる空間の中央から注入するということです。

→理解した。

- ・ No28, 29 について「認識の向上」のままとするとのことであったが、認識性（〇〇性）とした方が良いと思うが。

→No30 も合わせて、「照合認識の向上」で表現を統一します。

- ・ No44 で廃棄体の埋設予定日とあるが、埋設予定日は電気事業者側では分からないのではないのか？短半減期核種の減衰期間の確保であれば、別の記載にした方が良いのでは？

→搬出予定で 6 か月を確保出来ていれば、埋設予定を満足できていると考えている。

→具体的に日付けを書くという意味か？

→6 か月を超えているどうかを記載すれば足りるということです。

- ・ No55 のセルロースとアルミニウムの含有率の記載について、元文献の方に間違いということであるが、計算にあたってサンプルの本数を乗じていないのかと思い、コメントさせていただいた。

→ドラム缶標準でも、出典の生データ（一本あたりの含有量）を正として、これを元に正しい計算結果として含有率（1.1 と 0.8）を示しています。

→その場合、算定式（p. 99 の注 b）は修正する必要があるのでは？

→表 K. 7 と注 b の式の記載の整合を取るよう修正します。

(5) 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XX—大型角型容器形態編— 標準に係るサイクル専門部会中間報告（案）について

協幹事から、資料 3-1, 3-2 に基づき、サイクル専門部会への中間報告案の説明があった。質疑は以下のとおり。

- ・ 報告様式について、A3×1 枚と PPT の 2 つを作成しているが、標準委員会の報告様式が PPT に統一されたようだが、認識しているか？

→標準委員会では、要点を記載した PPT に様式が変更されたことは認識しています。サイクル専門部会も同様の扱いにするのかどうか分らなかったもので、内容を理解していただき易いよう A3×1 枚と PPT の 2 つを作成しています。標準委員会様式も必要だと考えますので、付け加えるようにいたします。また、原子力学会の事務局にも様式等の運用を確認するようにします。

- ・ PPT の p. 4 で、ドラム缶標準では輸送規則が適用されないと取られかねないような記載になって

いるので、誤解されないような記載にする必要がある。

→拝承。

- ・線量制限の要求事項も全て並べて書くと、どの基準によるのか分かりづらくなるのでは？

→@3m による線量制限とそれ以外について、位置付け分かるように修正します。

- ・A3×1 枚ものの最後に受入基準の記載があるが、受入基準は附属書（規定）で作成しており、今後変わる等の記載を敢えて説明する必要はないのでは？

→拝承。

- ・角型容器を使って処分することについて、電気事業者と埋設事業者で調整はされているのか？（情報共有はされているのか？）

→電気事業者が角型容器で廃棄体を製作するので、廃棄体仕様等を埋設事業者に提示し、それを埋設できる処分場の設計を検討して下さいという流れであり、この標準は提示条件になる事項を記載するものと認識しています。また、情報共有は、適宜実施しています。

- ・今後、角型容器を使った処分のニーズが高まって来ると思うが、規制庁への説明（エンドース対応）は実施するのか？（計画はあるのか？）

→放射能評価分科会において、現在 L1 の放射能評価のエンドース対応を実施しており、次は L1 の廃棄体製作と聞いています。

→今の廃止措置計画を考慮すると、この標準のエンドース対応も急ぐ必要があるのでは？現場が困るのではないかと？

→L1 と L2、両方の検討を進めており、エンドースのタイミングも見定めているところです。すぐにエンドースという状況ではなく、もう少し時間的猶予があると考えています。

→廃止措置を計画的・合理的に進める上で重要な事項であると考えているので、進めていくべき。

→事業者としては、原子力学会で積極的に検討いただき、助かっております。

- ・浅地中ピット処分、浅地中トレンチ処分と「浅地中」というワードを使っているが、このままにしておくのか？

→法令の名称に合わせて、「浅地中」を削除します。

- ・PPT 資料の p.4 で、重量 20t という記載があるが、この数字は標準の中で引用しているものか？

→落下試験の試験条件としての数値はあるが、標準の規定の記載としては 20t という数値ではなく、「所定値」と記載している。

→資料は修正します。

- ・同じく PPT 資料の p.4 で輸送兼用容器というワードが出て来るが、唐突感があるため、前半で廃棄物種類の説明の続き等で、説明を入れておいた方が良いのでは？

→拝承。記載を工夫します。

（7）浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XXードラム缶形態編ー サイクル専門部会対応について

協幹事から、資料 4-1、4-2 に基づき、2 月の原子燃料サイクル専門部会での投票での「意見付き保留」への対応結果と経緯の説明があり、5 月 9 日の専門部会、6 月 1 日の標準委員会へ説明することになった。質疑は以下のとおり。

・5月9日の専門部会で再度投票となった場合、6月1日の標準委員会に間に合うのか？

→投票になった場合でも、否決されることはないと思いますので、標準委員会に説明できるよう準備をしておきます。

6. 次回の予定

協幹事から、蓋締め方法やガスケット性能等の検討を進められており、反映方針の説明等、6月くらいになる見込みであるとの説明があった。

以 上